

様式第 17 号 (第 15 条関係)

建 築 工 事 施 工 計 画 報 告 書

建築基準法第 12 条第 5 項の規定により、下記のとおり建築工事施工計画を報告します。
この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

年 月 日

西東京市長 宛

代表となる工事監理者 住 所 電話番号 ()
 会社名 () 級建築士事務所 () 登録第 () 号
 氏 名 (印) () 級 建 築 士 () 登録第 () 号

工事施工者 住 所 電話番号 ()
 会社名 建設業の許可 大臣・知事 第 () 号
 氏 名 (印)
 (法人にあっては、その事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)

品質窓口責任者氏名 (印) 電話番号 ()

記

1	工事 現場	名 称			工区 棟	工事の種類	新築・増築・改築
		所在地	西東京市				
2	建 築 主	氏 名		住 所		電話番号 ()	
3	代表となる設計者	氏 名		所 属 会 社		電話番号 ()	
4	構 造 設 計 者	氏 名		所 属 会 社		電話番号 ()	
5	現場代理人(所長)	氏 名		現 場 事 務 所		電話番号 ()	
6	品質管理責任者	氏 名		所 属 会 社		電話番号 ()	
7	階数	地上 階・地下 階 塔屋 階	8	建築面積	m ²	9	延べ面積 m ²
10	高さ	軒高 m 最高 m	11	確認済証交付機関			
12	確認・計画通知、年月日及び番号	年 月 日		第	号		
13	計画変更年月日及び番号	年 月 日		第	号(変更内容は別紙)		
14	構造計算の方法	(X) ルート1・()・ルート2・()・ルート3 (Y) ルート1・()・ルート2・()・ルート3			限界耐力計算・時刻歴応答解析 その他 ()		
15 構 造	RC造・WRC造	階から 階まで		16 使 用 部 位	PCa・HPCa		
	SRC造	階から 階まで			PC		
	S造	階から 階まで			CFT		
		階から 階まで					
17 認 定 材 料	コンクリート			※ 受 付 欄			
	鋼材等						
	免震・制振部材						
	その他						

- 注意
- ※印のある欄は、記入しないでください。
 - 代表となる工事監理者又は工事施工者の氏名（法人の場合にあっては、代表者の氏名）の記載を自署で行う場合においては、押印を省略できます。
 - 代表となる工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容と確認済証及び設計図書等が整合しているか十分確認して記入してください。

コンクリート使用材料及び施工													
基礎の種類		<input type="checkbox"/> 直接基礎 { <input type="checkbox"/> ベタ基礎 <input type="checkbox"/> 布基礎 <input type="checkbox"/> 独立基礎 } <input type="checkbox"/> 杭基礎 <input type="checkbox"/> 打込み杭()、 <input type="checkbox"/> セメントミルク工法による埋込み杭、 <input type="checkbox"/> オールケーシング工法、 <input type="checkbox"/> アースドリル工法、 <input type="checkbox"/> リバーササーキュレーション工法、 <input type="checkbox"/> 拡底杭工法()、 <input type="checkbox"/> その他(工法)											
コンクリート強度 (N/mm ²)	使用工法				基準	<input type="checkbox"/> JASS5(年版) <input type="checkbox"/> その他()							
	使用部位	杭	基礎		階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階		
	設計基準強度												
	使用工法							軽量()種	モルタル	グラウト			
	使用部位	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階		
	設計基準強度												
塩害対策の有無		<input type="checkbox"/> 有(対策方法)			<input type="checkbox"/> 無		アルカリ骨材対策						
設計かぶり厚さ (cm)	部位	柱		梁		床		耐力壁		非耐力壁		基礎・擁壁	
		屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内		
	土に接しない部分	3+	3+	3+	3+	2+	2+	3+	3+	2+	2+		
土に接する部分	4+		4+		4+		4+		4+		6+		
検査計画	検査担当者(工事施工者)氏名						工事監理者又は係員氏名		立会検査の有無	常駐非常駐			
	検査項目	打込前	<input type="checkbox"/> 試練 <input type="checkbox"/> 散水 <input type="checkbox"/> 配筋 <input type="checkbox"/> かぶり厚さ							有・無	常・非		
		打込中	<input type="checkbox"/> テストピース採取 <input type="checkbox"/> 打込速度・順序 <input type="checkbox"/> 締固め							有・無	常・非		
		打込後	<input type="checkbox"/> 養生方法 <input type="checkbox"/> 養生温度 <input type="checkbox"/> 打込欠陥							有・無	常・非		
	エア・スランプ試験等の代行業者名												
	供試体の養生場所												
	構造体コンクリート試験機関名		36N/mm ² 以下の場合						都登録		第	号	
打ち込み欠陥部の検査方法等		36N/mm ² 超の場合						都登録		第	号		
鉄筋使用材料及び施工													
使用鉄筋	種別	SD295A		SD345		SD390		SD490		その他()			
	使用径	D ~D		D ~D		D ~D		D ~D		D ~			
鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)			
		使用箇所											
		継手工法名(溶接材料)											
		継手施工会社(優良圧接業者)											
		S A 級 継 手				有・無							
		A 級 継 手		有・無		有・無		有・無					
				A 級		その他		S A, A 級		その他			
	技量確認・施工前試験												
	冷間直角カッターの使用												
	試験・検査	外観検査(%)											
引張試験のみ(本/ロット)													
超音波探傷・測定検査(本/ロット又は%)													
引張試験併用(本/ロット)													
引張試験機関名								都登録		第	号		
非破壊検査機関名								都登録		第	号		
梁貫通口補強	補強方法		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 在来工法 <input type="checkbox"/> 既製品()						<input type="checkbox"/> 無				
	構造検討		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無										
	使用部位												

コンクリートの設計及び仕様による条件								
番号	a 打込箇所	※1 コンクリートの種類1	設計基準強度 (N/mm ²)	強度管理材齢 (日)	生工場 名	セメントの種類	単位セメント 量(kg/m ³)	スランブ スランブフロー(cm)
			品質基準強度 (N/mm ²)	養生方法		骨材の産地	水セメント比 (%)	※6 混和剤の種類
枝番	c 適用期間	※2 コンクリートの種類2	呼び強度 (調合管理強度)	判定基準強度 (N/mm ²)※3	※4	コンクリート 温度(°C)※5	空気量 (%)	混和剤

(注意) ※1 から ※6 までについては、その 4 を参照のこと。

コンクリート試験計画及び鉄筋試験計画一覧									
番号	打込筒所	打込予定年月日 (年 月 日)	コンクリート圧縮 試験回数 ※7	※4 生コン工場名	番号	鉄筋接合箇所 (継手種類)	継手予定年月日 (年 月 日)	鉄筋引張 試験回数 ※9	超音波探傷・測定検査 (本/ロット又は%)
枝番		打込予定数量 (m ³)	うち防災センター 試験回数	※8 圧送計画	枝番		継手予定数量	うち防災センター 試験回数	うち引張試験併用 (本/ロット)
合 計	打込予定数量		コンクリート圧縮試験回数		合 計	継手予定数量		鉄筋引張試験回数	超音波探傷・測定検査
			うち防災センター試験回数					うち防災センター試験回数	うち引張試験併用
供試体試験 1回の試験のうち (告示第1102号)	28日 日 日	本 本 本	支柱早期除去用 部位(梁下・床下)		日 本	PS 導 入用		日 本	

(注意) 1 防災センターとは、(公財)東京都防災・建築まちづくりセンターのことをいう。
 2 ※4 及び ※7 から ※9 までについては、その 4 を参照のこと。

レディーミクストコンクリート工場一覧

A	工場名称			B	工場名称		
	JIS表示許可番号				JIS表示許可番号		
	許可品目		運搬時間		許可品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
C	工場名称			D	工場名称		
	JIS表示許可番号				JIS表示許可番号		
	許可品目		運搬時間		許可品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
E	工場名称			F	工場名称		
	JIS表示許可番号				JIS表示許可番号		
	許可品目		運搬時間		許可品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		
G	工場名称			H	工場名称		
	JIS表示許可番号				JIS表示許可番号		
	許可品目		運搬時間		許可品目		運搬時間
	水の種類				水の種類		

コンクリート圧送ポンプ一覧

a	型番				b	型番			
	性能	cm	m ³ /h	N/mm ²		性能	cm	m ³ /h	N/mm ²
c	型番				d	型番			
	性能	cm	m ³ /h	N/mm ²		性能	cm	m ³ /h	N/mm ²

- (注意) 1 コンクリートの使用骨材による種類を記入する。
 2 コンクリートの使用材料・施工条件・要求性能などによる種類(通常、寒中、暑中、軽量、流動化、高流動、高強度、マスコン、プレストレスト、水中、水密)を記入する。
 3 高強度コンクリートの場合は、**Fq+mSn** のそれぞれの項の値を()内に別途記入する。
 4 生コン工場は第4号様式による記号で表示する。
 5 高強度・マスコン・暑中・寒中コンクリートについては、必ず記入する。
 6 混和剤の商品名及び種類(AE剤、減水剤、AE減水剤、標準形、促進形、遅延形)などを記入する。AE減水剤等の化学混和剤以外の混和剤を使用する場合は、塩化物量が分かるものを添付する。
 (混和剤の種類によっては、塩化物試験に有害イオンとして作用するものがあるので、注意すること。)
 7 コンクリートの圧縮試験回数は、打込工区ごと、打込日ごと、かつ150m³(高強度はJASS-2003, 2009及び2015は300 m³)に1回で適当な間隔をおいた3台のトラックアジテータから1台につき3個ずつ計9個以上)又はその端数ごとに1回以上とする。
 8 圧送計画は、その4による記号で表示する。
 9 鉄筋の引張試験回数は、200箇所又はその端数ごとに1回以上とする。